

第3回会議を開催！ビジネスプランの発表とブラッシュアップ！

1月31日に第3回「京都市中小企業未来力会議」を開催しました。

会議には、中小企業の若手経営者の皆様をはじめ、金融機関や支援機関の皆様、市職員など約100名に御参加いただきました。

今回は、新事業や中小企業支援策の18アイデアの中から、現段階で新たなビジネスプランへつながる可能性のある5つのプランを採り上げて、発案者から各プランの内容を発表していただき、専門家のアドバイスを参考に、参加者全員でブラッシュアップを行いました。

今後、プランの具体化や次の展開に向けた支援を行っていきます。

引き続き、皆様の御協力をよろしくお願いいたします。



(会場：京都中央信用金庫 本店9階大ホール)

～ 会議の流れ ～

① 参加者へのメッセージ(主な内容)

門川 大作 京都市長



中小企業活性化の新しいモデルに期待！

京都の宝である中小企業の担い手の皆様、英知を集め、融合することで、新たな展開が生まれる。それを行政が政策に反映することで中小企業が活性化する新たなモデルを作る。小さな成功事例をたくさん作り大きな成功へとつないでいくことを期待している。

渡邊 隆夫 京都府中小企業団体中央会 会長



面白さを加えた新たな視点で活性化を！

企業には面白さが必要。文化、伝統、産業も同じ。合理的に考えるのみではいけない。そこに良い意味での面白さを加えていただきたい。この会議を利用して、新たな視点や切り口から中小企業の活性化に繋がっていただきたい。

② 5つのプランを発表

5つのプランの内容発表とディスカッションのポイント説明をしていただきました。また、参加者への呼び掛けや事例紹介など、お知らせをしていただきました。

▼ 詳細は【2ページ目】を御覧ください。

<発表されたプラン>

- ★ ICTを活用した高齢者見守りサービス (佐藤 豊 氏)
- ★ 京都の学生・大学に京都の中小企業の魅力を伝え、就職してもらう (宿野 秀晴 氏)
- ★ 大政奉還150周年記念企画 (芳村 敦 氏)
- ★ 京町家を「子育てへの不安が解消できる場」にする (田房 夏波 氏)
- ★ 商店街の空き店舗を活用した伏見の魅力を発信する拠点づくり (浅野 雄祐 氏)



発表者の皆様 (左から佐藤氏、宿野氏、芳村氏、田房氏、浅野氏)

③ 専門家のアドバイス

西村 勇也 氏(NPO 法人ミラツク 代表理事)の進行で、太刀川 瑛弼 氏(デザインファーム NOSIGNER 代表)と岡村 充泰 氏(㈱ウエダ本社 代表取締役社長)から、5つのプランを例に事業化に向けたアドバイスをいただきました。



左から西村氏、岡村氏、太刀川氏

④ ビジネスプランについてのディスカッション

参加者全員がそれぞれのテーマごとのグループに分かれビジネスプランのブラッシュアップを図るため、ディスカッションを実施しました。

京都市の平成 29 年度予算案を発表！ この会議でいただいた皆様からの御意見を予算に反映しました！

▼ 詳細は【3ページ目】を御覧ください。

～ ビジネスプランの内容や参加者からの主な意見 ～

ICTを活用した高齢者見守りサービス

発案者：京都電子計算㈱ 執行役員 佐藤 豊 氏

<内 容>

独居高齢者をターゲットとし、新聞配達、商店街、ビル管理会社、福祉事業者等が連携して、ICTによる情報連携を行い、高齢者の見守り、宅配、掃除や電球交換等の困りごと、訪問介護等の様々な統合サービスを実現する。



<参加者による意見等>

- ポイントカードを発行し、カード使用状況が離れて暮らす家族に配信される仕組みが良い。
- 実績ある地元企業を核とすることで事業の信頼性を持たせてネットワークを拡大。
- 遠隔管理ではなく新聞や郵便の配達などアナログな部分が大切。

京都の学生・大学に京都の中小企業の魅力を伝え、就職してもらう

発案者：京都中小企業家同友会 政策委員長 宿野 秀晴 氏
(Medico-tec㈱ 代表取締役)

<内 容>

未来志向を持つ中小企業の魅力発信を行うネットワーク体制を構築し、以下の4つの取組を連動して実施することで、「多様な働く場と働き方」があることを学生等に伝え、就職につなげる。



- ① 学生と中小企業経営者の交流の場づくり
- ② 中小企業経営者による大学での講義
- ③ 学生等に向けた企業内研修の機会提供
- ④ 子供向け職業体験等の親子に向けたアプローチ

<参加者による意見等>

- 行政が接着剤の役割を担い、中小企業、大学、学生のネットワークのプラットフォーム作り。
- オープンデイを設けて中小企業の社内開放。
- 学生は「とりあえず」大手を選んでいる。中小企業側も企業の質を高め、情報を発信していくべき。

京町家を「子育てへの不安が解消できる場」にする ～日本の伝統を次世代につなぐ保育事業「親子園」の開設～

発案者：㈱和える 西日本統括本部長 田房 夏波 氏

<内 容>

内閣府「企業主導型保育事業」を活用して、日本の伝統を次世代につなぐ小規模保育事業「親子園」を開設し、想いを同じくする事業者の従業員の子どもを保育する。親子園では、京都のものづくり（伝統産業から先端産業まで）に触れることのできる親子向けワークショップを充実するなど、幼少期の感性を育む「和える教育」を確立する。



<参加者による意見等>

- 京都産食材を用いた京都らしい食文化を育む保育事業の実施。
- 経済団体や業種別組合等と連携した素材集め。
- 伝統産業の職人が直接関わることのできるワークショップ。

商店街の空き店舗を活用した伏見の魅力発信する拠点づくり

発案者：伏見大手筋商店街振興組合 理事長 浅野 雄祐 氏

<内 容>

「伏見大手筋インフォメーションセンター」を開設し、まちゼミの開講、フシミ大学（バーチャル大学）の開設、伏見の清酒の魅力発信、伏見地域の観光案内、大手筋商店街のお得情報の発信といった様々なコンテンツを提供することで、商店街に人を呼び込むなど活性化を図る。



<参加者による意見等>

- 伏見の日本酒を飲みながら、地域への思いや商売の哲学等を聞く「立ち飲み学校」の実施。
- 体験型や参加型で写真に撮りやすい内容で、参加者のSNS発信による効果的な観光客の集客。
- 伏見区向島地域の農家との連携。

大政奉還150周年記念企画

～幕末関連の石碑をAR技術で紹介するアプリ開発～

発案者：京都青年中央会 顧問 芳村 敦 氏

<内 容>

市内中小企業の力を結集し、幕末関連の石碑等にスマートフォンをかざすと、AR技術を活用した紹介や説明の動画等が出てくるアプリを開発し、大政奉還150周年を盛り上げる。



<参加者による意見等>

- クラウドファンディングの活用や広告掲載等、複合的な資金調達を検討しては。
- 観光地だけでなく、歴史ある土産物店、商店街、まちの事業者等をアプリ内で紹介。
- 観光の分散化の観点から大政奉還に限らない幅広いアイデアの抽出が必要。
- 見る、食べる、買う、体験するというコンテンツを盛り込むことが重要。

～参加者への提案や事例紹介～

○「未来力会議関連コーナー」提供の提案



(有)中村ローソク
代表取締役 田川 広一 氏

伝統産業は、どのようなものか実際に伝えなければ廃れる一方。この会議も同じく、どのような活動をしているか伝えなければならない。自身の店舗の一角でこの会議の参加者の活動を伝えるスペースを提供可能と提案したい。

○様々な組織の交流・連携の事例紹介



京都府中小企業団体中央会
連携支援課長 五十棲 雅人 氏

地域の原動力である中小企業や業界団体の発展が地域の活性化の重要な要素。市の中小企業チャレンジ支援事業で、この会議の意見を参考に異業種団体の連携をアナウンスしてきた。業界団体の横の連携による課題解決やイノベーションの創出を推進していきたい。

会議で生み出されたアイデアの具体化を支援！

中小企業未来力創出支援事業

「京都市中小企業未来力会議」において出された新事業のアイデアについて、具体化（試行実施）を支援し、中小企業が持つ未来を切り拓く力を最大限引き出し、新たなビジネスモデルを創出。

【29年度予算案】900万円

【補助率】2／3以内

会議で出された意見を8つの予算案に反映！



「平成 29 年度 京都市予算案」の詳細はホームページをご覧ください

<http://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000207709.html>